

2005年12月12日 発行

---

## 日本NIE学会会報 第2号

---

日本NIE学会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2

国立大学法人横浜国立大学教育人間科学部

影山清四郎研究室内

TEL/FAX 045-339-3433

E-mail kseishiro@edhs.ynu.ac.jp

---

### NIE学会第二回大会が大阪で開催されました

11月13日(日) 本年3月に設立された日本NIE学会の実質的に最初の大会となる第二回大会が、大阪市の大阪教育大学天王寺キャンパスで開催されました。

当日は好天にもめぐまれ、全国各地からNIEの実践・研究に関心をもつ教育関係者や大学関係者、報道関係者など、合わせて約180名もの参加をえることができました。事務局では当初、参加者は100名くらいだろうと考えていましたので、予想以上に大勢の方々のご参加をいただいて大変ありがたく思っています。ただ、そのため会場によっては資料やレジメなどが十分にいき渡らないところがありましたことをお詫び申し上げます。

午前中は三会場に分かれて自由研究発表が、また午後からは二会場で課題研究発表、そして全体でのシンポジウムがおこなわれました。中には立ち見の出る会場もあり、とくにシンポジウムでは急遽、会場にはいきりきれない方に隣の教室に移っていただき、会場の様子をビデオ配信することになりました。各会場の様子は後ほど、あらためてご紹介いたします。

また昼休みには第一回理事会が開かれ、シンポジウム終了後には総会が開催されました。総会では影山会長のご挨拶につづき、平成17年度事業計画案と平成17年度予算案の審議がおこなわれ、承認されました(5-6頁参照)。なお来年度大会は、横浜国立大学において、11月末頃に土曜と日曜の二日間の日程で開催される予定であることが報告されました。総会終了後は会場を移して、約50名が参加して懇親会がおこなわれました。

大会にご参加いただきました会員の皆様にお礼申し上げますとともに、会場校の大阪教育大学の皆様方、当日の大会運営にご協力いただきました方々に心より感謝いたします。

(運営委員会 平石隆敏)

## 各会場からの報告

各会場での発表や質疑の様子は以下のとおりです。

### 自由研究発表

#### 第一会場

##### (1) 山西敏博「国際社会問題と NIE・CALL、「発信型英語」に関する研究」

山西さん（苫小牧工業高等専門学校）は、日本語新聞と英字新聞を利用し、英字新聞におけるタイムラグを利用したタイトル付け、さらに、そのタイトルを実際に新聞社に送ることで、発展性を持たせることについて発表をおこなった。その上、インターネットをも利用するなど、新聞を核にして単に英語の学習だけではなく、国際理解をいかに進めるかと言った視点にまで踏み込んだ実践発表であった。

##### (2) 角田将士・鶴田輝樹「『社説』を活用した NIE 実践の創造と開発」

角田さん（広島工業大学高等学校）と鶴田さん（福岡県自由ヶ丘高等学校）の発表は、子ども達の合理的意思決定力を育成する手段として社説の利用を考えた、共同研究についてのものであった。授業案は共同研究であったので、詳細に踏み込んだものであり、その実践においても積極的な取り組みであった。ただ実践者の主観的な視点があるとの指摘を受けるなど、さらなる実践の積み重ねが期待される。

##### (3) 徳本侑子「意思決定力を育成する NIE」

大学院生の徳本さんは、新聞記事の分析に基づく授業実践計画案を提案された。現場の教師の場合とはかく実践段階に対する意識が強く、また、自己の実践感覚で判断することもあり、実践計画に対する分析が不十分になることが多々あると言われる。それに対して、大学院生の方の発表は、計画段階に対する分析に意識が注がれており、現場の教師にとっては大いに参考になった。この計画を実践に引き継ぐ教員が出てくることが期待された。

（司会 吉田裕紀）

#### 第二会場

本会場では 4 つの研究発表があった。最初に、「新聞は学びが生きる宝箱 - 理解と表現を育む算数科（グラフ指導）での新聞の活用 - 」と題した山路伸子さん（大阪市立滝川小学校）と田中敬子さん（宝塚市立すみれヶ丘小学校）のお二人が、新聞を生活に密着した各種データの宝庫であるという観点から取り上げ、小学 4 年生の子どもたちに、新聞から読み取ったデータをグラフ化して自作の新聞で表すという手法（毎週の宿題を含む）で指導し、グラフを読む・書くことを通して物事を関数的に捉える見方・考え方を体得させようとした、息の長い取り組みについて発表した。

続く、「親と子をつなぐ NIE - 子育て支援サークルの活動を通して - 」では、大阪市天王寺区大江地区で主任児童委員を務める末高貴子さんが、「子育て支援サークル」に集う母親と乳幼児を対象にした、ユニークな新聞活用実践について発表した。乳幼児は、新聞紙を破いたり、ちぎったり、紙吹雪にして遊ぶことを喜び、その間、母親達も新聞の見出しにふれて会話が弾むといった効果があると述べられた。ちなみに新聞紙のインクは無害であり、新聞で手を切ることは決してなく、極めて安全だということである。

続いて、「情報行動教育の創造『必要？ 不必要？ その情報...』」と題した荒木美久子さん（奈良市立佐保小学校）は、小学 5 年生で取り上げられている「情報」産業について知るだけでなく、有益な情報を求めて行動を起こす力を「情報行動力」と呼び、それを育み、意識化させる新聞活用実践について発表した。

最後は、「NIE学構築試論 - NIE実践の類型化と研究分野構成について - 」と題して、阿部二郎さん（北海道教育大学函館校）が、日本新聞教育文化財団が推進するものをNIEとするのか否かなど「NIE」解釈の問題をはじめとして、新聞記事利用における著作権の問題など「根源的な課題意識」を指摘したうえで、現在の「NIEの特質」、同氏が定義される「NIEの位置付け」、そして「NIEの研究領域区分」の可能性について発表した。

何れの発表に対しても活発に質疑応答がなされ、盛会であった。発表時間20分に対する質疑10分は、やや短すぎた感がある。時間が許せば、質疑の時間をもう少し延ばすとか、4つの発表を通して再度、論議をする時間を設けるなどの方策が必要かもしれない。この点は、今後の検討課題であろう。（司会 寺尾慎一）

### 第三会場

第三会場では、教科指導におけるNIE学習の実践報告と調査研究が発表された。さらに、発表後に自由討論の時間（30分）を設けたことによって、参加者（約60名）との活発な意見交換がなされた。

(1)中 善則「地域ミニコミ誌づくりをとおしたNIE学習 街の交信基地をめざして」

中さん（岸和田市立土庄中学校）の実践は、中学校一年生選択社会の授業において、街の課題（歩道フェンス設置の問題など）を取り上げ、新聞づくりを通して地域との関わりを深めていったものである。現地調査したり関係機関に取材したりすることで視野を広め、編集会議を経て作成したミニ新聞（B4用紙一枚）を、地域住民に個別配達している。このように情報発信する側に立つことによって、情報を批判的に読み解く力を養うとともに、社会科の目標である「市民性」を育成することができると提案された。

質疑では、こうした取り組みを個人レベルにとどめず組織的に行うにはどうすればよいか話題となった。

(2)宮内愛美「戦後国語教科書における「新聞」」

宮内さん（横浜国立大学大学院）の研究は、昭和22年～平成14年までに刊行された中学校国語教科書（現在も発行している五社）を対象として、「新聞」を取り上げた教材の実態を調べ、データベース化を行ったものである。また、イギリスのメディアテキストと比較することによって、日本の教科書の特質を考察しようとしている。

質疑では、五社に限定することなく、他社の教科書及び指導書に取り入れられた大村はま氏の優れた実践例等も調査対象とすべきであることや、イギリスのテキストを比較対象とする根拠について明確にすべきであることなどが指摘された。

(3)三上久代・瀬川良明「NIE・学校図書館を活用した中学校国語の授業実践 新聞記事データベース・インターネット情報検索の試行と評価」

三上さん（札幌市月寒中学校）は、瀬川さん（北海道教育大学教育実践総合センター）との共同研究として、新聞データベースを活用した実践（中学一年生対象、全16時間）に取り組んでいる。学校図書館を学習情報センターとして活用すること、及びインターネット情報と新聞記事データベースとの違いに気づかせることに重点をおいたものである。生徒一人ひとりが課題（研究テーマ）を設定し、新聞の読み方を学んだり、データベースを検索したりしながら、学びえたことを発表する総合学習として展開された。

質疑では、テーマ発見のためにどのような指導を行ったかなどが話題となった。

総じて、NIE学会としては、こうした実践的・実証的研究を積み重ねていくことが必要であることなどが指摘され、充実した分科会となった。（司会 田中宏幸）

### 課題研究1

「メディア・リテラシーを育成するNIEの開発 ~「これまで」と「これから」~」と題した課題研究1では、メディア・リテラシーの育成を目的としたこれまでの取り組みと今後の課題について、中・高の先生から報告をいただくとともにメディア側から見たメディア・リテラシーの育成について意見を発表していただき、NIEの意義や可能性について検討した。ここでメディア・リテラシーという言葉については、「メディアが形作る現実を批判的に読み取るとともに自らの考えなどをメディアを使って表現し、社会に向けて効果的にコミュニケーションをはかることでメディア社会と積極的に付き合うための総合的な能力」とする。なお、「批判的に」というのは否定的というネガティブな意味あいではなく論理的で偏りのない思考という意味で受け取りたい。

和泉敬子さん(大阪府立東百舌鳥高等学校)からは、これまでのメディア・リテラシーの現状を踏まえたうえで、今後はメディア・リテラシーを育成するNIEの実践がとくに重要であることが指摘された。また植田恭子さん(大阪市立天王寺中学校)は、(1)メディア・リテラシーをはじめNIEで育成できる力を明確にすること、また(2)NIEにより生まれるコミュニケーションの場という観点、および(3)カリキュラム上での位置づけと授業の構造化が重要であると提案された。さらに福田徹さん(読売新聞大阪本社)は、メディアの側からとして、新聞を単に「読み解かれる」対象ととらえるのではなく、新聞と読者とが「共に読み解く」という視点が重要であること、またメディア・リテラシーはメディアの陰の部分のみに注目すべきではないことを指摘した。

報告を受けて指定討論者の平石隆敏さん(京都教育大学)からは、(1)なぜ新聞をもちいたメディア・リテラシーなのか、(2)NIEによるメディア・リテラシーはどのように体系づけうるか、(3)メディア・リテラシーは何をめざすのか、この三つを明らかにする必要があるという問題提起があった。

その後、フロアを交えて活発な意見交換がおこなわれ、メディア・リテラシーを育成する上で、学習材としての新聞をどのように活用していくかについて先行実践に学ぶこと、情報操作技術が重視されている現実を踏まえ、多角的なアプローチとともに、指導者のメディアに関する認識を深めることの重要性などが指摘された。

(コーディネータ 枝元一三)

### 課題研究2

「マルチメディア時代におけるNIEの可能性 ~なぜ今もNIEなのか~」をテーマとして行われた課題研究2は、ここ数年のNIE全国大会において参加者から繰り返し問いかけられてきた「マルチメディア時代において、なぜ今もNIEなのか」に対して、学会として理論的・実践的に考えていくことをねらいとして企画された。

そこで、本課題研究においては、迫有香さん(広島県廿日市市立大野中学校)からは「メディア・リテラシーを育成する社会科授業実践」というテーマで、マルチメディア社会における新聞活用の必要性が実践に基づいて提案された。阪根健二さん(香川大学)は、これまでのNIEの現状と課題を振り返りながら、社会を見つめる力や実践的学力の向上という点でのNIEの今日的意義を提案された。渥美勝朗さん(中日新聞社NIE事務局長)は、新聞社における特色ある実践の報告を通して、教科書で学ぶ基礎学力と新聞で学ぶ発展的学力の両面が真の学力として必要であると提案された。

3人の提案を受けて、指定討論者の柳澤伸司さん(立命館大学)からは、NIEの可能性を考えていくためには、教師もメディアの一つであること、ジャーナリズムとしての新聞、報道されなかった出来事への着眼といった視点が重要であるという問題提起がなされた。

フロア - からは、「クリティカルという概念をどう学校で教えているのか」「大学からのNIE実践の報告が必要ではないか」「NIEでメディア・リテラシーを取り上げれば、新聞嫌いにならないか」といった質問・意見が出された。

マルチメディア時代におけるNIEの意義と可能性という観点で本課題研究をまとめると、次の3点を指摘することができる。第1は、これからのNIEが育成する力として、「メディア・リテラシー」(迫氏)、「読解力、社会性」(阪根氏)、「考える力、社会力、生きる力」(渥美氏)が提案されたが、これらはマルチメディア時代の中で落ちていく力であり、同時に必要になる力であるが、その育成のためには新聞を核としながらも他のメディアのそれぞれのよさを生かした連携が必要であること。第2は、連携が必要ではあるが、「なぜ・どうして、もっと知りたい新聞で」「どうしたらいいの、みんなで考えよう新聞で」というように、考える力、熟考する力、判断する力、そして社会に参加する力の育成という点では、新聞は他のメディアよりも大きな力をもっていること。そして第3は、このような意義と可能性をもつNIEを学校教育の中に定着させていくためには、各教科・領域や総合的な学習の年間計画の中でのカリキュラム化が必要なことである。

(コーディネータ 小原友行)

#### シンポジウム「NIEで育てたい力 理論化をめざして」

これまでNIEの実践は、各教科や「総合的な学習の時間」等のさまざまな時間の中で、さまざまな意味づけがなされながら構成されてきた。日本NIE学会の設立に伴い、これらの実践がどのように理論化され、方向付けられるべきかが、今後の課題になるだろう。

本シンポジウムでは、このような問題意識から、まず板垣雅夫さん(東京私学教育研究所)からNIEを実践している教員の「思い」、岸尾祐二さん(聖心女子学院初等科)からファミリー(家族ないし家庭)にフォーカスをあてた実践とその効果が分析され、教育現場におけるNIE実践の可能性と課題が検討された。次に小田迪夫さん(前大阪教育大学)から国語科におけるNIE教育の意義と可能性、高田貴久司さん(上越教育大学)から学習指導論からみたNIE教育の可能性が、理論的に検討された。

後半の討論では、フロアからの質疑を交え、(1)NIE教育を展開させる上で学習指導と発達との関係の整理、(2)新聞活用と学習者の主体形成の理論的整理、(3)実践とその効果を理論的に整理する必要等の課題が話し合われ、最後に今後の研究の方向性についてもさまざまなアイデアが交換された。

(コーディネータ 高木まさき・森田英嗣)

## 日本NIE学会 平成17年度事業計画・予算

総会で承認された平成17年度事業計画と予算は以下のとおりです。

### 【平成17年度事業計画】

平成17年

- |        |                        |
|--------|------------------------|
| 5月15日  | 第1回常任理事会               |
| 6月30日  | 会報創刊号発行                |
| 9月11日  | 第2回常任理事会               |
| 9月下旬   | 大会案内発送                 |
| 11月13日 | 第2回日本NIE学会、総会および第1回理事会 |

12月 会報2号発行  
平成18年  
1月 紀要発行、会員名簿発行  
3月 第3回常任理事会

【平成17年度予算】

収入の部		
会員会費	1,360,000	(270人×@5,000+5人×@2,000)
法人会員会費	950,000	(19社)
合計	2,310,000	
支出の部		
会議費	270,000	
会報(2回分)	120,000	
会誌	450,000	
通信・連絡費	400,000	
第2回大会運営補助費	150,000	
各種委員会	80,000	
研究調査費	100,000	
名簿作成費	200,000	
事務局経費	540,000	
合計	2,310,000	

## 各委員会から

### 運営委員会

第2回運営委員会(2005.8.27 天王寺中学校)

- (1) 17年度予算作成
- (2) 第2回学会の内容と準備
- (3) 学会開催の案内状発送
- (4) 第2回学会のパンフ作成・袋の用意
- (5) 第2回学会の役割分担
- (6) 理事会の内容と弁当の準備
- (7) 第2回学会の受付

第3回運営委員会(2005.10.23 天王寺中学校)

- (1) 学会要項等の袋詰めの打ち合わせ
- (2) 当日の役割分担 受付分担、アルバイトの確保
- (3) 雨天の場合の準備

第4回運営委員会(2005.11.12 大阪教育大学)

前日準備

## 地区支部の活動

### 四国地区

11月12日(土) 日本NIE学会四国地区集会在高松市で開催された。当日、香川県を中心に、愛媛県・高知県の小中高校教員や香川大教員、院生や学生、また、新聞社の担当者など35名が参加した。

2回目となる今回の集会では、「学力問題とNIE」をテーマに、本学会員である坂出市檀石中の藤川由香教諭が、国語(古文)の授業にNIEの視点を生かした実践例を報告した。ここでは「竹取物語」が伝える内容と現代のニュースとの共通性を考え、時代を超えて今なお伝承されていることの意義を見つめ直す授業について説明したが、こういった通常の授業に、如何にNIEが取り入れられるかが話し合われた。なお、読解力が単に新聞が読めるという範疇から、どう読みこなすかが重要であり、それが今後のNIEに発展につながるという点で一致した。次回は来年度6月に3回めが開催されるが、自由研究発表を盛り込み、会員誰でも自由に研究成果を発表できる場の創設が決められた。

(香川大学教育学部 阪根健二)

## 学会ホームページがリニューアルされました

大阪教育大学の森田英嗣先生のご尽力により、学会ホームページがリニューアルされました。ぜひ、ご覧ください。

アドレスは下記のとおりです。

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~care/NIE/index.html>

## 会報ニュース

### 事務局から

1. 第1回理事会(2005.11.13 大阪教育大)

第2回学会の昼食時に開催

(1) 本年度事業計画と予算の審議

(2) 次回学会開催地 2006年11月末、横浜国立大学開催で一致

2. NIE学会第2回大会の参加者

合計180名 うち学生23名

3. 学会会員数と会費払込みについて

2005年11月30日現在 会員数310名(会費未納入21名)

会費未納の方には本会報とともに払込書を同封しますので、なるべく早く納入をお願いします。

なお会報1号で法人会員として16団体をご紹介しましたが、その後、次の3社に新

たに法人会員となっておりました。ご協力にお礼申し上げます。（五十音順）

河北新報社  
信濃毎日新聞  
中日新聞社

#### 4. 常任理事会の開催について

第3回常任理事会を2006年3月に開催します。日程・内容は後日通知します。

NIE学会第2回大会でのアンケートより  
第2回大会でのアンケートから、皆様から寄せていただいたご意見をご紹介します。

##### 1. 開催時期について

時期については11月頃が多かった。また春・秋2回という意見もあった。

##### 2. 開催日程について

1日とする案、2日とする案がほぼ同数であった。

##### 3. プログラムについて

- ・パネルディスカッションという形式は学会でよくとられるものだが、時間が制限されている場合、表題の立派さの割に中身は大したことがないことが多いので止めた方がいい。
- ・大学院生の発表は理論を紹介する形式に終わり実践がともなわない場合が多い。発表はNIE実践結果の分析、評価するものであってほしい。
- ・「NIE実践の創造と開発」「意志決定力を育成するNIE」は非常に重要な研究である。今後の研究に期待する。
- ・自由研究発表は30分ずつ、会場を移動できるようにしてほしい。
- ・プログラムに校舎の地図を入れて欲しい。
- ・少し休み時間を入れてもよいのではないか。
- ・広告は新聞社以外、出版社などもよいのでは。

##### 4. 大会の感想

- ・会場が寒く暖房がほしい。
- ・日程を2日間とし、活発な意見交換ができる「分科会」なども欲しい。
- ・より広い会場が望まれる。
- ・理論研究をより深めてほしい。
- ・大学の教員が若い中・高の教員にするアドバイスはあたたかなものであってほしい。
- ・課題研究は余り得るところがなかった。
- ・教育現場以外の実践事例の発表に期待する。
- ・分科会参加者に資料が行き渡らないことがあったので、配布の仕方に工夫を。
- ・NIE全国大会とのちがいはどうなのか。
- ・多くの教育者がNIEに関心を持っていることに感銘を受けた。

ありがとうございました。紙面の関係ですべてを載せることができませんでした。ご了承ください。